

1 はじめに

新居浜市では、ノートパソコンやプロジェクタ、実物投影機などの配備が進み、授業を中心とした学習場面で、ICT機器の活用が積極的に行われている。先日実施した、「平成30年度視聴覚・情報教育に関する調査」によると、市内の小・中学校合わせて8割以上の教職員がICT機器を活用した授業をしているとの結果も出て、意識の高さがうかがえる。また、タブレット端末については、その利便性や有用性が注目され、全国で活用されているなかで、市内でも活用している教員が増えてきている。そこで、新居浜市情報教育研究委員会では、今年度の夏季休業中に、教職員を対象にタブレット端末の研修を行った。

2 教職員研修について

- (1) 研修会名 「平成30年度 新居浜市情報教育同好会 タブレット端末研修会」
- (2) 日時 平成30年8月24日（金）
- (3) 会場 新居浜市立新居浜小学校
- (4) 参加対象 新居浜市立新居浜小学校及び新居浜市立金子小学校の教職員・市内の小・中学校の情報教育主任
- (5) 内容

タブレット端末を用いた実践を行っている新居浜小学校及び金子小学校の校内研修との共催で、新居浜市内の小・中学校の情報教育主任を対象に参加を呼び掛け、研修会を行った。この研修会では、Sky株式会社より講師を招聘し、タブレット端末にて学習活動ソフト「SKYMENU Class 2016」を活用して学習を行う方法を教えていただいた。授業で使えるカメラ機能や動画の同時再生機能、発表資料を画面で共有するやり方など、便利な方法を学ぶことができた。新学習指導要領で目指すべき方向の一つである、「主体的・対話的で深い学び」となる学習活動に役立つものであった。今回学んだことを、各校に持ち帰って、校内での研修に役立ててもらおうようにしている。



3 おわりに

今年度、新居浜市で夏季研を開くことで、タブレット端末の有用性について再認識することができた。新居浜市内でもタブレット端末を活用する教員が少しずつ増え、活用への意欲も高まっている。また、ノートパソコン、プロジェクタ、電子黒板等を使った授業が日常的に行われ、ICT機器の活用は総じて進んでいるといえる。一方で、ICT機器を活用している教員は多いが、環境が整っていないという課題がある。例えば、プロジェクタや実物投影機が学級に1台ずつない学校や、それらが配備されていても配線等の手間が掛かり十分に活用できない学校がある。また、タブレット端末については、依然として一部の学校にしか配備されておらず、教員が自己負担で購入し、授業で使用している現状もある。さらに、配備されていても、有効なソフトウェアが搭載されていない学校もある。誰もが使いやすいICT環境を目指して、環境整備が今後必要不可欠である。

最後に、プログラミング教育については、「もっと研修したい」という声が多数あり、研修の必要性を感じた。来年度、市内で研修する機会ができるよう提案していきたい。今後も、ICT機器活用の研究や教職員の指導力向上に向けた研修会の充実に努め、情報交換の充実に努めていきたい。